

メタコミュニケーションとしての学年・学級だよりの効用

— 附属高校が担う人間教育の一方法 —

Effect through Grade and Class Letter as Meta-Communication

英語科 林 正太

<要旨>

「聞こえさせておく」指導の重要性

個でつける力と集団生活の中でつけていく力への指導は、ホームルーム（LHRやSHR）の時間を使って、時には、じっくり話し、気づかせ、サポートしていくことが必要であると感じてきた。「聞こえさせておく」という継続的な指導を用いて言い続けていくことによって、生徒たちに届いていく。その一手段として、学年だより・学級だよりの効用は大きいと考え、3期間（49期、53期、57期の9年間）に渡って実践してきた。子どもに対してだけでなく、保護者に対してもメタコミュニケーションとして機能する要素を実感できた。

小・中学校で培われてきた生活観が高校段階ともなると、行動範囲の広がりや多様化された価値観との出会いのなかで、生徒たちだけの価値基準や判断でものごとを捉えがちになる傾向にある。生活上の指導を直接受けるのは、高校段階がラストチャンスであると考え。LHRやSHRでは、行事の話し合いや連絡事項が優先され、学習や生活のあり方を生徒たちに伝えたり、考えさせたりすることがなかなかできない状況にあった。そこで、立ち位置と距離感を意識したサポートをとりながら、教師としての視点をメタコミュニケーションとしての役割を持つ2つの「たより」を活用して伝え、考えさせてきた。

<キーワード> 聞こえさせておく 響かせ合い 伝え心 教師の本分 親としての勘どころ
メタコミュニケーション

1. はじめに

連携はコミュニケーションからはじまる。

- (1) 連携：同じ目的を持つ者が、互いに連絡をとり、協力し合って物事を行うことである。
- (2) コミュニケーション：情報の伝達、連携の中核的な機能、相互信頼の向上の手段である。
- (3) コミュニケーションの相手：生徒、教師、保護者、学校関係者、学校外の関係者である。
- (4) メタコミュニケーション：コミュニケーションを成立させるためのコミュニケーションである。

以上の4点に視軸を置き、実践記録を記載する。

2. 視点

小学校には「人」を通しての教育があり、中学校には「生活」を通しての教育がある。高校には「科目」を通しての教育が、それぞれ根底にある。子どもたちは、それぞれの教育を経て成長していく。

昨今、子どもたちの行動範囲の広がりや多様化された価値観で、子どもたちは、見たまま感じたままの価値判断や基準で、物事を捉えがちになる傾向にある。家庭での躰を基にして、学校での生活上の指導がさらに重要な

要素となってきた。教師が教師であること、親が親であること、家庭が形ではなく、家庭として機能していることが真に求められる時勢である。「直接、手をかける子育て」の終盤期にさしかかっている子どもを持つ保護者に対しても、「大人として」の視点を持って、子育てを模索していくことがこの時期には重要であると考え。 「子どもを見ていく子育ての時期」から「子どもに見られる子育ての時期」への移行時期であることも視点の一つにしてきた。

3. 生徒の現状と学級・学年だよりの役割

入学時に、次のような話をしている。「附高の生徒は、性能のいい車でハイウェイをバンバンとばしているようなところがある。前や横ばかり見ていると焦ってしまい自分が追い詰められてしまうかもしれない。早い時期に自分のスピードと車線を見つけることが大切である。」これは、現状を捉えながら、自己肯定観を保障していくことで、持つ必要のない劣等感にさいなまれないことに気づかせたい趣旨である。また、本校に入学するために、年齢相応の社会力をつけることに時間や体験を費やすことよりも、優先させてきたものに偏りすぎない生徒

も見受けられる。いわば「急いで育てられた子ども」であるかもしれない。保護者も容認してきてしまった部分も自省とともにあると言う。

学級だよりでは、学習の仕方、高校生としての生活、将来を夢見る力、親としての踏ん張りどころなどを中心として、月に1度発行してきた。そのダイジェスト版や学年の教師の記事も適宜載せ、学年だより「今」(2006年4月～2009年3月)、「聞こえる?」(2010年4月～2013年3月)として、これも月に1度の割合で発行してきた。生徒たちは自分の置かれている状況や現在なすべきことを確認するとともに、大人目による視点も意識しているようである。学年・学級だよりは、子育てをしていく人間同士が上っていく階段の踊り場にある、ちょっとした標示のようなものであったかもしれないと思う。

4. 学年だより・学級だよりを発行するに至った経緯

筆者が中学校に勤務していた頃は、道徳や学級活動の時間で、目の前にいる子ども達の動向や必要とする指導に対して、ある程度、タイムリーに伝え考えさせることができた。それらの事柄を学年の共通理解を図るために学年だより「架け橋」として発行していた。

その後、パナマ共和国にある在外教育施設に勤務する機会を得た。小・中学部合わせて60名程度という小規模の教育施設であった。小学部派遣教師6名は、週に1度の割合で学級だよりを発行していた。中学部派遣の3名もその必要性を感じ、学部会で相談し、学級だより(JaPanama)を発行することを決めた。(1992年) それは、日本を離れてきた子どもの動向と現地理解—「事物の理解から人の「心」を核とした理解へ」—をテーマとした。過干渉になりがちな保護者へのメッセージと、子どもの視野をもっと外へ素直に向けさせたいという海外子女教育からの視点であった。詳細に関しては、東京学芸大学海外子女教育センター(現 国際教育センター)発行の「在外教育施設における指導実践記録第16集 1993年」に集録されている。

時を経て、高校教師としての戸惑いが始まった。中学校ではできていたように思っていたことが、高校生になると「いい加減」になる面が目についてきた。成長段階であると思えることと、そうでないことがあるように感じられた。「今風の高校生文化」に、私なりに「メス」を入れたかったのであろう。当時の学級だよりに、次のように記している。

『何年も前になりますが、就任時に「高校生の行動に

興味があるから附高に来ました。』と生徒に挨拶をしました。この言葉は、今も時折、私の指導を戸惑わせることがあります。生徒を見る目を複眼にしたことは事実です。実に、多様な高校生がここにはいるからです。共通していることは、過去の成果が現在に結びついているということ、そして、大きな可能性を秘めていることです。時として、過去のある時点でできていたことが、高校生という名のもとに麻痺してしまうこともあるようです。確かに、高校生になった生徒に多くの学びを感じています。課題レポートの数の多さと要求水準の高さに取り組む姿勢もその一つです。附高の「凄さ」がここにもあります。知識偏重型だけでは苦しいかぎりの高校であるかもしれません。ここに附高の「怖さ」がありそうです。

自分探しの後期にあたる高校生が、多くに挑戦しながら、今風に行動しながらここで学んでいます。私は、「生徒が頑張りすぎることに、慣れすぎないでほしいということ」と「教師が容認してはならないことをしっかりと持っていたいということ」の2点をいつも意識しています。後者においては、生徒が生活上の指導を直接受けるのは、高校生であるうちがラストチャンスである」と私は考えています。

教師の対応姿勢に、学校の意義と質の高い学校文化を感じます。学校には、社会のルールが存在しているはずですが、学校は凝縮された社会です。人と人が学問と経験文化を摩擦させ、伝承させ、創造していく行動習慣が学校にはあります。

今の世の中、大人が社会を正しい方向にリードしていく場面がもっとあってもいいと思っています。教師は歳のおしゃれができる大人でいたいとつくづく思います。』

学級を担当するようになってから、「高校生の持つ凄さと可能性を、もっと伸ばすためには」を基本概念として、生徒と保護者宛にメッセージを伝えるために、学級だよりを発行していくことを決めた。本来は、このような「平面的コミュニケーション」ではなく、直接、生徒と「立体的コミュニケーション」をとりたい、考えさせたいという思いは強い。タイムリーに時間設定ができない現状の中で、この学年・学級だよりは、教師と生徒、生徒と保護者、教師と保護者、教師同士のメタコミュニケーションとして有効であると判断した。

学年だより「今」2006年4月～2009年3月

号数	タイトル	メッセージ
1学年		
No. 1	4月8日 出発	車線とスピード
No. 2	入学おめでとう 出発	色
No. 3	君たちに期待すること	リーダーとは
No. 4	自分を伸ばすために	自己肯定観
No. 5	自由と責任について考える	今を見つめる
No. 6	開示と願い	心の痛み
No. 7	自分の学習を見直してみよう	踏ん張り
No. 8	自分らしさ・附高生らしさ	広く高く
No. 9	父性原理	子育て
No. 10	将来を夢見る力	自分作り
No. 11	この1年、これからの2年	可能性

2学年

No. 1	17歳	巣立つ力
No. 2	これからの子どもの成長源	受信
No. 3	「選択をすること」と夏休み	日差し
No. 4	君たちの「将来」	ビジョン
No. 5	高校生活の後半	勝手解釈
No. 6	ひとかたまりの時間	友との共有
No. 7	The Magic Pebbles	小石を拾う
No. 8	新年にあたり	未来の世界を
No. 9	根っこをはる土壌づくりから	耐える力
No. 10	進路特集	やるべきこと
No. 11	親が親でいること、教師が教師であること	大切にすもの
No. 12	学校の授業を大切に	ビジョン

3学年

(輪番制のため林が担当したもののみ記載)

No. 1	一年間の密度は濃い	愚直な努力
No. 2	もっとやれる	新たな一面
No. 3	「時の人だから」	友はスパイス
No. 4	UP	学力を確かなものに
No. 7	親心満開	時期の詩
No. 8	Career Choosing	Challenge
No. 10	卒業	明日の光を体に浴びて

学年だより「聞こえる？」2010年4月～2013年3月

(輪番制のため林が担当したもののみ記載)

No. 1	4月8日 出発	車線とスピード
No. 2	大器と成る	3色 + $a + \beta$
No. 3	学び	座布団の原理
No. 4	自分を伸ばすために	学習の9箇条
No. 5	「親」と教師の役割	それぞれの世代
No. 8	「先になり、後になり」	子育て
No. 9	校内生活	自由と責任
No. 14	根っこを張る時期	先と足下
No. 15	この1年、これからの2年	親への応援歌

2学年

No. 18	これからの2年	小石を拾う
No. 20	親からのいつもの味	受信力
No. 24	高校生活の後半	ビジョン
No. 26	君たちの「将来」	UP
No. 27	シュン感	旬の時期
No. 30	親としての踏ん張りどころ	お膳立て

3学年

No. 31	また、受験生になって君たちへ	The Future You Want
No. 32	大きな舞台へ立とうとしている君たちへ	スパイスは友との共存
No. 35	挑戦を受け入れて	扉を開くこと
No. 38	第一世代の後半にさしかかっている君へ	生きていくということ
No. 39	教師が教師でいること	大切にすべき今
No. 40	The Way We Were	つぶやきとメッセージ

学級だより 2006年4月～2009年3月

1学年

No. 1	入学おめでとう	車線とスピード
No. 2	集中するには	スタイル
No. 3	あとになり、さきになり	親の位置
No. 4	一定の時間と暗記から始める	確かな学力
No. 5	平面的学習と立体的学習	学ぶということ
No. 6	開示と願い	再起
No. 7	学級保護者会	人生力
No. 8	人との関係の中で	エリートとは
No. 9	1年の終わりによせて	普遍的価値観

2 学年

No. 1	2年間の付き合いの始まり	学校文化
No. 2	力をつける時期 2007	響かせ合い
No. 3	気持ちを乗せて	集団の質
No. 4	気持ちを乗せて	生徒の本分
No. 5	気持ちを乗せて	かかわり
No. 6	気持ちを乗せて	学ぶ力
No. 7	気持ちを乗せて	居場所
No. 8	HARMONY	人とのかかわり
No. 9	根っこを張る時期 2008	忍耐と期待
No.10	親としての踏ん張りどころ	時期の持ち味
No.11	親としての踏ん張りどころ	親の位置

3 学年

No. 1	受験生であり附属高校の3年である君たちへ	学ぶとき
No. 2	将来を夢見る力	Manner
No. 3	将来を夢見る力	Energy
No. 4	クラス演劇	Share
No. 5	将来を夢見る力	Member
		Share
No. 6	将来を夢見る力	Capacity
		Planning
No. 7	将来を夢見る力	Cooperation
No. 8	附属高校にいた夏の証とこれから	Life
No. 9	子どもの目標を尊重することから	
	サポートがスタートする	親心

学級だより「学ぶシリーズ」 2010年4月～2013年

1 学年

No. 1	模倣から創造へ	車線とスピード
No. 2	三日坊主大いに結構	根気
No. 3	学力	音読のすすめ
No. 4	中学生から高校生へ	学び
No. 5	夢見る力	学習は生徒の本分
No. 6	夢を描く力	自分の内に気づく
No. 7	HARMONY	つながる力
No. 8	夢を描く力	人生の合い言葉
No. 9	根っこを張る時期	インスパイヤー
No.10	親からのアドバイスの味	つぶやき

2 学年

No. 1	2年間の付き合いの始まり	学校文化
No. 2	当たり前と思うこと	デリカシー
No. 3	気持ちを乗せなよ	学習は生徒の本分
No. 4	気持ちを乗せて	関わり
No. 5	「シュン感」を44人で	Cooperation
No. 6	気持ちを乗せて	いい集団の中にいる
No. 7	学力の分析	一定の時間をかける
No. 8	ひとかたまりの時間	智・尊・足
No. 9	すき間の時間の有効利用	やれる
No.10	UP	生活リズム
No.11	蓄をつける期間	Planning
No.12	やれる！	継続
No.13	親のころ	距離感

3 学年

No. 1	将来を夢見る力	Challenge
No. 2	将来を夢見る力	Manner
No. 3	将来を夢見る力	Energy
No. 4	クラス演劇	Share
No. 5	今、伝えたいこと	Member
		Share
No. 6	将来を夢見る力	Planning
No. 7	NEXT STAGE	学ぶということ
No. 8	附属高校にいた夏の証とこれから	エンジン
No. 9	子どもの目標を尊重することから	
	サポートがスタートする	親心と願い
No.10	将来を夢見る力	Cooperation
No.11	その日のために、今がある	大丈夫
No.12	いよいよだな	ポジティブになれよ
No.13	来るときが来た	You can shine.

5. 学年だより・学級だよりから生まれた言葉

— 「呟き集」 —

言葉は気持ちをデリバリーするぞ。

そして、感染もしていくからな。

- ・自分の言葉で話さない。
- ・人を生かし自分を生かす「やさしさ」大切だぞ。
- ・教室は間違っていていいところだぞ。
- ・1人の恥は、みんなの財産。
- ・学ぶ者の謙虚さ、大切だぞ。
- ・人は、人との関係の中に居場所が必要なんだよ。
- ・失くしたものを数えるな。残っているものがたくさんあるじゃないか。
- ・できないんじゃない。やらないだけだ。
- ・小さなことができる人は、大きなことができる人だぞ。
- ・点と点は直線で結ぶばかりではなく、曲線で結ぶことも必要だぞ。
- ・常に自己改革せよ。
- ・学ぶ前に、真似なさい。
- ・誰がやってもいい仕事は、おまえがやれ。
- ・勉強するのは、生きていく道幅を広げるためだ。
- ・意識の連続が無意識になるぞ。
- ・「なんとかなる」ではなく「なんとかする」。
- ・誰が正しいかではない、何が正しいかだ。
- ・時間を守れない人は、失うものが沢山あるぞ。
- ・見えない仕事は進んで行く。見える仕事はみんなで行う。
- ・一生懸命勉強すれば知恵がつく。中途半端でいると愚痴が出る。
- ・自分を決め付けるな。自分に魔法をかけろ。
- ・いい仲間がいる。だからここで頑張れるんだ。
- ・仲間がいれば、可能性は広がるぞ。
- ・何もしない時は、失敗もしないものだぞ。
- ・出る杭は打たれるけれど、出すぎた杭は打たれないからな。大丈夫だ、いいから、やれ！
- ・そのままの君でいいんだよ。自分を大切にしろ。
- ・常に、いいものを、本物を見るようにしなさい。附高には、きついけど、それがあるから。
- ・読むことは人を豊かにし、話し合うことは人を鋭敏にし、書くことは人を確かにするぞ。
- ・「読書百篇意自ら通ず」だぞ。
- ・人と比べるな。昨日の自分と比べろ。
- ・成果がなかなか出ないときは、根っこが伸びている時と自分に言い聞かせろよ。

- ・逃げるのが、いけないのではない。逃げてばかりがいけないんだ。
- ・夢は、いつも君の背中を押してくれている。
- ・ゆっくり進む者は、遠くまで行けるからな。
- ・大切なのは、どのように社会に出て行くのかを考えることなんだから。
- ・成功する秘訣、それは成功するまでやること。
- ・一步を踏み出すには、まず今の足元を固めよ。
- ・足元のゴミにそっと手を伸ばせる人になれよ。
- ・自信とうぬぼれは紙一重。
- ・苦しい時に励ましてくれるのは、過去の自分だぞ。
- ・みんなちがっていて、みんないいのだから。
- ・弱音を吐いて、まわりを巻き込むな。苦しいときこそ、気配りを忘れるな。
- ・努力は素質を上回り、気力は実力を越える。
- ・結果に原因あり、原因、我にありだぞ。
- ・深刻にならず、真剣になるんだぞ。
- ・いいか、話は、目で聞け。
- ・努力の過程は人を作り、結果は思い出を作る。
- ・一番強いのは、続ける才能だ。
- ・会話は文句じゃないぞ。
- ・運は貯金できるんだぞ。だから、気持ちを起こせ。
- ・自分と人を比べなくなった時、人は本当に自分を好きになれるからな。
- ・元気は出るものではなく、出すものだ。
- ・自分の選択を正しいものに変えていけるのは、自分だけ。
- ・失敗したら、まず、「ごめんなさい」「すみません」が、枕詞だぞ。覚えておけ！
- ・小石をできるだけ拾っておきなさい。
- ・元気があるときは、人と比べればいいんだよ。疲れていたら、自分を休ませたらいい。
- ・それぞれに自分のペースと物差しがあっていいんだよ。
- ・辛いときには、その悩みを言葉にしてごらんよ。閉じ込めていては、苦しいからな。
- ・人のことを悪く言って、自分を正当化させているときは、自信を失っているときだ。
- ・君のその一言、人を傷つけていない？
- ・悪口を聞く相手のことも考えた方がいいぞ。
- ・頑張ってきた自分に酔っていいときもあるんだぞ。
- ・食あたりと同じように、「人あたり」する時だってあって当たり前。距離と時間をとってごらんよ。
- ・ページはめくらないと何も始まらないぞ。

- ・焦るな！スタートラインは、いつでも自分でひけばいいんだぞ。
- ・安心していいよ。見えるところにいるからな。
- ・ノッテイルと感じたら、大股で歩いてごらんよ。
- ・元気な表情と言葉は、きっと、親も元気にしているんだよ。自分がそうだったからね。
- ・健康と知性は、この世で与えられる二つの恵みであると思っているよ。
- ・熟練した小鳥だけが歌うとしたら、森は静まり返るだろうね。
- ・それぞれが、いいもの持っているのになあ。これだけまわりが凄すぎると自信なくなるよなあ。でも、自分を温めろよ！
- ・時には、とても忙しいけど、エネルギーに満ちている自分が見えるだろ？
- ・望む将来は、そう簡単には手には入らない。だからこそ挑む価値があるんだよ。
- ・やるべきことを押えておくと、やりたいことがもっと自由にやれるはず。賢く選択することが大切だね。
- ・後回しにするな。逃げると運も逃げちゃうぞ。
- ・成長の波に乗るしかないね。本気にハマルと伸びるぞ。
- ・附高生として受験生として、この1年を語れる誇りを持って！アクセルを踏もうよ。
- ・どうにかなってきた時は、いつまでも続くものではないぞ。分かっていると思うけど。
- ・自らの持てる力で勝負するのではなく、新しい力を付け加えろよ。
- ・もっと高めるためには、学べるところへ自分を持って行くこと。分かっているよな。
- ・苦しみながら夢見ていくこれからの1年間。競争原理を生かして友とがんばれ！
- ・友情には手入れが必要だぞ。ほつれを縫って、せっかくの友情が生産的でない我慢と怠惰のせいで、離れていかにないようにしなくてはな。
- ・やれる部分だけで勝負するときではなく、やれなかったことを付け加えて行く時だぞ。
- ・言い訳をせず、こだわりを持ち、努力によって、次に学べるところへ自分を持って行く準備をする時だ。
- ・苦しいけど、求めて行く日々からは、ハリが生まれるぞ。人生の舵は自分でとるんだ。
- ・現状で満足せず貪欲にいこう、限界はずっと先にあるかもね。
- ・合理的にはいかないことは必ずある。それ自体が問題なのではなく、その問題にどう対処するかが問題だからな。
- ・附高生としてのプライドと思い出を作っていくのもこの1年。学ぶ美しさ、分かる？
- ・目に見えない頑張りどころが沢山ある。謙虚に学べ。
- ・小さな充実感を繰り返すことが、頑張り続けるコツ。
- ・やるべきことは理屈なくしてやる1年。でも、時には、愚痴することも精神衛生上必要だぞ。
- ・やれば必ず成果に結びつく。そのためには、考えていることを実行に移せばそれでいい。
- ・自分の足でしっかり歩くこと。親は見守っていてくれるから。
- ・自分の進むべき道を自分で決める。大切だ！
- ・今は目の前にあるものを精一杯やればいい。できる自分に必ず出会えるはずですよ。
- ・周りの声は、自分が見落としていることを気づかせてくれているんだよ。
- ・自分のやりたい事も大切、やらなければいけない事をやるのも大切。これからが旬！
- ・3日までは、自分に厳しくしてられるのが、人の心理だからな。さあ！
- ・後ろから突然、弓矢を打たれる時がある。その切り抜け方に、人間性が求められるよな。しんどいけどね。
- ・緩いつながりって、時には、心地いいね。
- ・無意識のうちに築きがちな心理的障壁を取り除いて、人と接していきたいよな。
- ・青春と云われる時期は、忘れ物が多いものだ。でも大丈夫。後になって気づくから。
- ・今の感性を大切に、そのまま行けばいいと思うよ。感性は、今が旬だからね。
- ・上手く行くかではなく、やりたいようにやったかどうかが、次の自分の力になるぞ。
- ・無理は、時々、するものだ！だからできるんだ。重ね過ぎるとポッキと折れちゃうぞ。
- ・将来の方向性が決まったら、自分の可能性を信じて行けよ。
- ・失敗にはいろいろな小径が考えられるが、成功にはひとつの道しかない。それが何か分かっているよな。
- ・まず見える、まずは想像できる進路に足を踏み入れてみなよ。もっと見えてくるから。
- ・夢を見るがいい、試すがいい、人間の特権だからな。我ら人間なんだから。

- ・不安が伴う、それでいいんだよ。横目で見守り、支えていてくれる親がいるから。
 - ・伝えることは、自分をわかってほしいときに、すごく大切なことなんだよ。
 - ・親と子には以心伝心はある。たった2,3年の付き合いの我々には、言葉で伝えろよ。
 - ・マナーとは、まわりの人びとに対する心遣いである。
 - ・マナーは人を作る。知識と操行は同時に向上すべきである。
 - ・謙虚な言葉遣いは、ときどき日常のあわただしい会話のなかで、行方不明になる。お互い気をつけていこう。
 - ・人に迷惑をかけないように、間違えないように生きていこうとするより、自分だってそうすることがあるのだから、人の過ちを許せる人になっていこうよ。
 - ・一緒にいる人、これから出会っていく人を大切にしていってほしい。支えあって行ける人がいることは心強い。お互いの存在を認め合えることは嬉しいこと。力が出るからね。
 - ・勢いのあるときは、どんどん行ったらいい。若さには忘れ物はつきものだよ。今は、気にしないでやりたいようにやったらいい。
 - ・大学でも学べ。人生の道幅をもっと広く深く高くするために。小石はいつでも拾っておけよ。You can shine some day.
 - ・頭で話すのではなく、気持ちで話せるといいね。自分の言葉で話していくこと、大切だよ。
 - ・誰かが話してきたときには、その人が話したがっていることにしばらくは耳を傾けてあげたらいいよ。いずれ自分にもそういう時が来るから。
 - ・失敗したら、言い訳はしない。「申し訳ありません」が、次を教えてください。
 - ・自分のために時間を取ってくれた人には、「ありがとうございます」が、次に繋がるよ。
 - ・数年後、社会に出たら、時には、年配者の匂いのする位置に自分を持っていくことは、大切なことだぞ。同世代だけでかたまるなよ。
 - ・実社会に出ていく前の数年間の基礎訓練期間に、良い指導者と友に恵まれ、努力を惜しまなければ、やがては自己肯定観を持ちながら、実社会に出て行けるからな。
 - ・大切なことは、「机上の学問だけでは、社会で活躍できない」ということである。学力以外に大切なものがある。そこに気づこうよ。
 - ・礼節を含めた、相手を不快にしない対人力が必要。相手に気持ちよく迎えていただける対人力が必要。人に自分の思いを説得する力も大切。
 - ・時に、大胆に攻める勇気も必要。時に、断る勇気、逃げる勇気も必要。人を見分ける眼識も大切。
 - ・対人力は「学力以外の大切なもの」の中でも最も重要なもの。
 - ・大学は出たけれど、何もとりえのない勉強だけができた人にはなるなよ。
 - ・若い時は、自分を生かすことに夢中になっていてもいい。
 - ・その場の空気と人間関係を生かすことを考えることのできる人が、大切にされるようになってくる。
 - ・若い頃は、自分本位でも周りや社会は許してくれる。手柄を誇っても許されるかもしれない。驕りのある人、傲慢な人には、人はついて行かない。
 - ・「実った稲穂は、頭をたれる」のたとえのように、人も功成り名を成すにつれ、頭を低くする人格を身につけることを忘れないようにな。
 - ・大業を成す力と驕り高ぶらない人格を、ともに身につけていくことは可能なこと。
 - ・勝って驕らない「謙虚な人格」が好きだ。
 - ・ある意味で、このような世間からの評価を得た高校を卒業し、大学を出て、実社会に出て行くと、知らず知らずのうちに、人に対しても社会に対しても、驕り高ぶりの感覚をもったままの卒業生を見かける。
- じゃあ、行ってらっしゃい！人との関わり大切にしていって行けよ。
- この文字の思い、伝わっているかな？
- いつか、思い出してほしい。いつか、読み返してほしい。これらの言葉が君たちのところに刻まれていくことを願っているながら・・・

6. 学年だより・学級だよりを書くための

10 Keywords

1. 学ぶということ
2. 集団生活で大切なこと
3. 可能性とエネルギーは若さの特権であること
4. 違うということ
5. 響き合うということ
6. 聞こえさせておくこと
7. 自分・人・未来との関わり
8. 教師としての信念と本分
9. 親としての熱意と願い
10. コラム（現況と社会情勢）

7. 学年だより・学級だよりに使える言葉

○学校に関すること

- ・学校は社会の縮図
- ・個でつける力
- ・集団生活のなかでつける力
- ・響き合い
- ・違いの受容
- ・公共の場と私的の場の区別
- ・自己肯定観
- ・根っこを張る時期
- ・土壌を耕す
- ・公衆のマナー
- ・普遍的価値観
- ・学ぶということ
- ・学ぶ者の謙虚さ
- ・教師が教師であること
- ・巢立つ力

●学習・進路に関すること

- ・読むことは、人を豊かにする
- ・話すことは、人を鋭敏にする
- ・書くことは、人を確かにする
- ・愚直な努力
- ・音読の効果
- ・模倣から創造へ
- ・探求心
- ・段差は人を育てる
- ・夢見る力
- ・学んだ者の論理と学ぶ者の論理
- ・可能性を探る
- ・JobMatching

- ・社会的自立
- ・特性

◎家庭・社会に関すること

- ・トンネルに入っている成長期
- ・社会的自立
- ・価値観の多様化
- ・14歳と17歳
- ・手綱ぐあい
- ・親力
- ・歳のお洒落
- ・聞こえさせておくという子育て
- ・仕掛をしながら待つ力
- ・子どもを見ていく子育ての時期
- ・子どもに見られる子育ての時期
- ・人生という土壌
- ・小枝は曲がるが、木は傾く
- ・親の人生観
- ・親の勘どころ
- ・大人の役割
- ・それぞれの世代で生きることの意味
- ・親が親でいること
- ・いつの日か「手放す」ために子育てはある

8. いつ書くか、何を書くか、どのように書くか

「書くことが先ではない」「継続できるか否かを意識するでもない」発行するために生徒を見るのではなく、行事や日常生活の中で、生徒を見ようとするところから見えてきたことをタイムリーに発行したいと思っている。学年に共通する事象については、学級だよりのダイジェスト版や、必要に応じて、詳細版を発行することになっている。

1. 週末ごとに、その週で感じたことをメモ程度に書いておく。
2. 発行一週間前に、具体的な現象面を付け加えながら、テーマを絞る。
3. 発行3日前に、文面を整える。
4. 必要に応じて、引用、参考文献やイラストを用いる。

9. アンケートの集約学年だより・

学級だよりに対してのアンケート集約

(53期と57期で実施、49期は保護者からの感想のみ)

9-1 (保護者)

(1) 学年・学級だよりはお子さんの学校生活の向上の一助になっているとお考えですか。

- ・ぜひ、携帯、パソコン世代の先生たちへ、この魂を引き継いでほしいと願っています。Mailではなく、生のことばで書き綴り伝えてほしいと願います。子ども達は、大切なことを、何度も読み返し、その繰り返しが浸透します。
- ・学年・学級だよりを発行していただきまして、心から感謝申し上げます。おたよりを拝読し、高校での日常生活の実態や問題点を認識できますことは、大変、有り難く存じます。また、人生の目標を選択していく高校生の時期は、親や子がどのような思いを抱える時期であるのか、どう過ごすべきなのかについて、丁寧に説いて下さり、深く考えさせられます。とても暖かく熱意のこめられたおたよりは、親子で成長するための大切な指針となり、大変、勇気づけられる励ましとなっております。
- ・メッセージの数々は、普段より生徒たちに直接伝えて下さっているとは思いますが、お便りとしていただくことにより、さらに力を持つものと感じます。
- ・手紙など文面に込められたメッセージが直接言葉で投げられる以上に人の心に訴えかけるものです。
- ・ずっと発行して下さいますおたよりはどの言葉もその時々にならずに、また親の立ち位置を確認させていただきながら読んでおります。
- ・附高生、あるいは、その親としての心得を学ぶことができます。
- ・入学以来、時期に応じて子供達のおかれている状況を把握し、生活面・学力面そして精神面において、時には厳しく、しかし、生徒を応援する暖かいまなざしで強くサポートしてくださっていると思い、感謝しております。受け取る側が幼くて、100%心に取り込むことが出来ないとしても、大人になる過程において大切なものを、少しずつ受け取っていると信じています。
- ・毎回、拝読させて頂いております。学年だよりには、学校生活をおくる上での基盤となる生活習慣やマナーについて、各先生方の子供達に対する温かいメッセージが伝わってきて、ただただ頭が下がる思いです。そ

して、学級だよりには、教育者としての先生の志やビジョンといったものが、一つ一つ文章に感じられ、思わず引きこまれ親として、社会人として、感銘を受ける事も多々あります。学校から発信して頂いているこの「だより」は生徒だけではなく、親にとってもとても参考になっているものとありがたく思っています。

- ・子どもたちは自分のまわりや親しい友人の様子は把握していますが、クラス全体・学年全体を俯瞰することは難しいので、学級だより・学年だよりが唯一の拠り所となっていると思います。また、文字として、目から入ることにより、じっくりと自分の生活を振り返り、より良い明日の為にゆっくり考えることができると思います。
- ・学生のメンタリティの動向や微妙な心構えの分析などが理解できた気がしております。
- ・学校生活における基本的姿勢、心構えを繰り返し示して頂き、又、迷い、悩んでいるであろう子ども達の背中を後押しして下さいような暖かい言葉があふれていますので、子ども達が独立自尊の精神を確立していく上で、大いに助けになっていると思います。
- ・多感な時期を過ごす子どもにとって、親の言葉よりも学年・学級だよりを読んで、目から入る言葉の方が心に入っていたのではないかと思います。親がもっと気がつかなければならないことが学年・学級だよりにはたくさんありました。
- ・親として子どもの対応に迷った時、参考になるお話がたくさんありました。
- ・子どもが何かに迷っている時、ふと目にした先生の言葉に勇気づけられ、答えを導き出すことはあると思います。
- ・多くの苦言や沢山のはげましに子供だけではなく保護者も考え、はげまされ、楽しく読まさせて頂いておりました。
- ・「言葉」だけでなく、学年、学級だよりの文章から（視覚）からもう一度考えを整理し再考しているように思います。
- ・心の中に抱えているその時、その時の悩みや葛藤、矛盾といったモヤモヤした感情を明確にことばにしてくれました。ことばで確認し、再度考え、感情を認識することができました。そうすることで、立ち止まり、我が子を立体的に見ることができました。先生の文章は全て保管しています。
- ・口頭ですと、どうしても「ああ、またか」という先入観的に心を半ば閉じて聞く話が、「読む」ことによって、

- 大人側の思いや考えがじっくり染渡るように伝えられてきたと思います。しかも3年間という長い間！！
- ・お言葉から自分にあてはまるものを見つけ出し、支えにしたり、自分を変えていく目標にしているようです。親の代わりに話しかけて頂いているようです。
 - ・このアンケートを通してではなく、日常の会話の中でそれが分かるほど読み込んでいたようです。
 - ・大変役立たせていただいています。学年だよりも学級だよりも、毎号、大変楽しみにお待ちしています。私は、教育や学習の書籍を読む方だとは思っていますが、先生のお書きになるものは、特に、大変具体的で、それらにまさるアドバイスが満載だと感激しつつ読ませていただいております。
 - ・高校に入学し、安心したのもつかの間、これでいいのだろうかと不安になる日も増えてきました。どこまで口を出して関わっていったらいいのか迷う中、学年だより、学級だよりは、親のあり方を示してくれる存在です。時代が変わって、子供の学校生活も変化している中、認めるべき所と、譲ってはいけない所について考えるきっかけを与えてもらいました。
 - ・学年だより・学級だよりは毎回楽しみに拝読しています。学級での子供たちの様子、その時々の問題点がよくわかり、その事について娘と話し合うよう努めています。
 - ・高校生活を送る上での大きな指針になっていると思います。「附属高校の一生徒としての誇りと自信を失わずに、自分流の自己肯定観を見だし、優れた仲間の中で、努力し、向上していこう」という先生のメッセージは、子供の心に強く影響し、高校生活を豊かなものにしていていると思います。
 - ・学年だより、学級だより、いつも楽しみに拝読いたしております。クラスの様子、学習の方法、アドバイス、マナーについて親としての心構えに至るまで、全てが知りたい情報であり、また、思春期という難しい子育て時の非常に有り難いご助言、ご指導です。
 - ・クラスの様子、学年の行事：近況を知ることができてありがたい。
 - ・学年だより・学級だよりの発行、ありがとうございます。息子の言葉の中に、先生が“たより”の中に書かれている事が聞かれます。また、親としても、ふと立ち止まり考えさせられる事もあり、子供の学校生活の向上に役立たせていただいています。
 - ・今、この時期に、親が子どもに話したいこと、「頑張って！」という言葉以外で伝えたいこと等、思いはあっても、なかなか上手く伝えられないことがあります。学年・学級だよりは、そんな思いが載っており、子どもが目を通し、少しでも何かを感じとってくれば、学校生活の向上の一助になっているのでは・・・と思います。
 - ・大変役に立っています。(毎回、読ませていただくのが楽しみです。)親子の会話も少なく、ましてや学校生活の様子や問題など息子から聞き出すことが難しい中、現状を知る貴重な手がかりとなっています。
 - ・学校は単に勉強を教える、学ぶところではなく、団体生活を通して社会生活を身につけ人間性を作っている場であると考えています。教育が、学校・家庭との相互関係から成り立つものと考え、学年だより、学級だよりは保護者にとっては大変重要なものであると思っています。
 - ・娘にとっては学年だより、学級だよりはバイブル的存在なのではと勝手に思っております。おたよりを通しておっしゃってくださることに、私はしめしめとにんまりすることが度々あります。私が十言より先生の一言が重みが5倍も10倍もあるからです。
 - ・学校生活の向上の一助どころか十助(?)になっているものと確信しております。受験勉強に関することなど、特に実践しようとしてつとめている風です。
- (2) 今までの学年だより・学級だよりで印象に残っているものがありましたら、感想とともに書きください。
- ・「学ぶシリーズ」PART2 No.1これが私共にとっては、学級だより1号ですが、「学ぶ者の謙虚さ」これは大事なキーワード。
 - ・高校生は、子供自身が自己の価値観を形成・確立していく時期であると思います。これまでに備えた価値観とは逆送するような子供の変化に直面しても、親は受けとめていかなければと向き合っています。『子供の健全な価値観・道義・自制心を忍耐強く教える』『人生という「土壌」を見せながら、親が大切だということを時間をかけて、本気で伝えていく』『親が元気に自分の人生を生きていることを見せる』など、おたよりの心に深く刻まれた言葉を信じて歩んでいきたいと思っております。
 - ・入学した頃より、たくさんの心に残っている文章がありますが、最近では「学級だより」の“親としての踏ん張りどころ Part1,2”が印象に残っています。思春期の息子との接し方にとまどいを感じ、悩むことの多

- い今日この頃、夫と二人で読ませていただきました。親としてのポジション、大いに反省させられました、それと同時に深く慰められ、励まされ、救われる思いがしました。折に触れ、何度も読み返しております。
- ・「学ぶシリーズ」Part3No.6「I'm proud of you.」泣けます。本号が辛夷のメイキングビデオです。
 - ・「時間を大切にするところには、時間が集まってくる」そして「人を大切にするところには、人が集まってくる」という文章が心に残っております。「人と接する」職業をしております私は、この一文を、職場で紹介し、何事も「大切に」する気持ちを共有しようと呼びかけました。ミーティングの場で後輩に話す事が多いのですが、先生の「学年だより」の文章を引用させて頂くこともあります。本当にありがとうございます。
 - ・2008年3月8日No.10が琴線に触れました。「最後のお弁当」のくだりは、我が家にも数ヶ月後には訪れる光景であり、想像しただけで今からしみじみとした気持ちになってしまいます。「親としての時期の持ち味」では、子どもの成長過程に応じた親力の大切さに気づき、今後のあり方の道しるべとなりました。親自身が元気で人生を楽しむことが大切であることに、全く共感しています。
 - ・まず、最初に「附属高校はハイクオリティな車でハイウェイを・・・」という表現に心がつかまれ、次に「魔の15分と集中力」では、科学的に学習方法を具体的に教えてくださったことに感激。その上に時間を意識する方法や、英語の音読と、また一歩踏み込んだアドバイスがあるのが素晴らしくて納得。「学力は一定の時間をかけること」では、勉強をしないでできる事がカッコイイと思いがちな高校生に正面から正論をぶつけてくださった。「模倣から創造へ」も、「模倣は優れた先人達が、皆、してきたこと」とハッキリ明示してくださった。あげればきりがありません。
 - ・「学ぶシリーズ」No.17「学力は一定の時間をかける・・・」附高の生徒は多少なりエリート意識があります。「謙虚さと地道な努力」の大切さを再確認。
 - ・「三日坊主」のお話は我が身をふりかえってためになりました。最近では、親としての踏ん張りどころの回が印象に残っています。自分の子供が評価の高い学校に入り、なんとかやっていることを、「自分を越している」と思ってしまい、過大評価して、親としてのなすべきことを忘れてしまっていた部分があったことを反省しました。息子自身の人生であることを自覚しながら、親の目も持ち続けることを教わりました。
 - ・学級だより No.9 2008年1月8日号
根っこを張る時期・・・全ての事に通じると思います。受験勉強は勿論ですが、長い人生、結果の出ない時期もあると思いますが、前向きに考え、進んでいってほしいと思います。
 - ・美化に対して、T.P.Oをわきまえた行動について・・・本来、家庭で行わなければならない躰について、今一度、話し合いました。
 - ・“生活のマナーがきちんとなされていない”という事。整理、整頓、自分のまわりの環境をきれいにする等、当然、この年令までには身につけていなければならない、ごく当たり前の事が全く出来ていないというお話にびっくりもし、親も反省させられました。振り返れば、子供は勉強が忙しいから、他にやる事が沢山あるからという都合の良い理由で、我が子の部屋もついつい母親が掃除をしてしまう状況です。生活のマナーの基本は、成長過程において家庭で学び身につけるもの、改めて考えさせられました。
 - ・2012.7.20以降のものは、特に印象に残っています。
 - ・時に、正しく美しいマナーは一瞬で知識を追い越し、勝ることがある。(言葉は、先生の書いたものと違うかもしれませんが。私のことばで書き換えたかもしれません)。
 - ・「考えてほしいことは、10年後の自分を予測してみることだ」ということば。今、勉強していることが、どれほど大切で重要なものか、子供にもよく理解できると思います。
 - ・特に印象深いのは、2007年度No.4,No.6,No.7,No.9の学年だより、2007年度No.9,No.11の学級だよりです。いつも先生の『詩』に感動し、勇気をいただいています。
 - ・私にはどれもが大切で、読みながら時々胸が熱くなり、年のせいでしょうか、涙がこぼれてしまうことがあります。でも、これではアンケートの答えになりませんので、あえて2つ程選ばせて頂きました。「2008年3月8日学級だよりNo.10」子どもの中の、自分の価値観と違うものを受けとめ、受け入れることの大切さが書かれていました。難しいことですが、自分自身の課題の一つだと思っています。また、お父様でいらっしゃる一面も見せていただき、大変、印象に残っております。2つ目です。「2008年6月12日学級だよりNo.5」行事、素晴らしいと思います。観る側にも大きな感動を与えてくれます。でも、そこに至るまでには、それぞれに悩みや、葛藤があり、さまざまな思いが交錯する中で練習を重ね、当日を迎えていることに気付かせ

て頂きました。その中で息子は成長させてもらっていることを感じました。

- ・ どれか一つということではなく、毎回毎回、先生の熱い思いがピンピン伝わってくる文面に、自分の子の担任として有り難いことだと感じています。
- ・ 敢えて選ぶなら、“努力：小石→ダイヤモンド” “Harmony” 銀杏がこれまた鮮やか。
- ・ “浸透作用”のおかげで、息子が友人から吸収した事は多いと思います。感謝すると共に、息子も何か良い影響を友人にと願っています。
- ・ “お弁当”のお話が、温かくじーんとききました。
- ・ 学級だより No.10「お弁当の話」は「子どものお弁当を作っている頃が一番いい（親として）」という話を聞いたことがあり、それを思い出しました。
- ・ 入学当初のクラスだよりに「周りは高速道路をハイスピードで走っているものばかりだが、この現状に惑わされることなく、自分のスピードで進むことを忘れないでほしい」という一文は、大変印象深く、親としての私の支えになりました。マイペース(スローペース)な息子を見守ろう(見守るしかない。)又、冷静に接しようと思えたのはこのメッセージのお陰です。
- ・ 「学ぶ」シリーズ No.10 (2011/03/05) お弁当にまつわるエピソードとともに1年間の眩き連発で、我々は皆、涙しました。
- ・ 「学ぶ」シリーズ No.5 (2010/09/17)「親や教師は、常識を持っているだけではなく、時間かけて、子どもたちに「あたりまえ」とされていることを「躰」として身につけさせていかななくてはならないと思います。人にやってもらうのではなく、親と教師が責任を持って教えていくことです」そのとおりでと思います。社会がどのように変化しても、人としての礼儀やおもいやり、その表現としてのマナーはきちんと伝えられる親でありたいと思います。
- ・ 「学ぶ」シリーズ No.5～No.8です。附属高校生活の集大成である辛夷祭演劇「姥捨山」に、本当に感銘を受けました。それに対してのこころを綴った文章の数々に大いに感銘を受けました。
- ・ 子育ての先輩としてのメッセージ(父・母というのは～)はとても説得力のあるものでした。母親としての自分を見直す良いきっかけになりました。しかも、それがなぜかグッドタイミング(自分にとって)だったことも印象に残っています。
- ・ しつけが出来ていない息子たち(ゴミ問題、服装のみだれ)に真剣に取り組んでいただいていることに頭が

下がります。「高校時代が人としてのマナーを身につける最後のチャンス」というメッセージは本当だと思いましたし、親としてしっかりせねば・・・と改めて思いました。

- ・ 私にとっての一番の話は「三日坊主」いつも途中で挫折してしまうことの多い私には、この発想の転換が好きです。
- ・ 「親として、教師としてふんばりどころ PART2」子育てに悩んだら立ち止まってこの文章に目をやる、何度でも目をやりたい文章です。
- ・ なんとと言っても「眩き」特集です。附属高校のチキンスープ版です。他の学年の生徒と保護者の方にも見てください。
- ・ 眩き集は圧巻です。学級だよりと一緒に、一冊の本として発行して下さい。

(3) その他、全体的なご感想やご要望があれば、お書きください。

- ・ 子供にとって、真剣に道義を説き、熱心に語りかけてくださるお言葉は、かけがえのないものです。真心あふれる学年・学級だよりをたくさんいただいたことは、いつまでも、子供の心に残ることと思います。今後も、どうかよろしくお願いします。
- ・ 今後とも、学校での子供達の様子をお知らせいただければと思います。これからの時期は、受験に向かい、親子で不安定になる事があるかもしれません。第三者の冷静な視点での助言をいただければ幸いです。
- ・ 附属高校に入学しました頃、娘は周囲の方の学力の高さに戸惑い、自分を見失ってしまわないかと、内心、心配しておりました。しかし、親の心配などよそに、娘はのびのびと自分らしく学生生活を楽しんでおります。それは、ひとえに「人間教育、健全な人格形成」に基づいた本校の教育方針が「学年だより、学級だより」を通して、生徒達の心に浸透しているからではないかと思っています。これからもご指導よろしく願います。
- ・ これまでの2年間の様子が思い出され、改めて、おたよりの良さを実感しているところです。親にとっては、学校生活の様子や先生方のお考えを知るのに有効であり、また、子どもと学校生活の話題を共有できるすばらしいものだと思いますので、今後も楽しみにしています。
- ・ 辛夷後の「将来を夢見る力 = LEARNING」には、涙しました。

- ・学年だよりも学級だよりも大事にファイルしています。私の勉強方法としても良きアドバイスが満載でした。大事にします。最後に大変生意気で恐縮ですが、生徒向けの場合、取っかかりやすくするためにA4もしくはB5にして、2回に分けていただくと、より多くの子供達が読む機会がふえるかもしれないと思ったりもしました。毎回、大切なお忙しいお時間をさいて、お書きいただき、感謝しています。
- ・子供の成長と共に親の成長も必要であり、学校からのおたよりは見つけたら、必ず読んでいます。非常に感動し、フィードバックしたいと思うのですが、いつの間にか忘れてしまいます。ファイルして一年ごとにまた読んで「しまった」と反省しています。あと一年で終わりかと思うと淋しいかぎりです。
- ・TPOをわきまえた服装、行動、美化に対して、人との関わり・・・どれも生きていく上で、大切かつ、欠くことの出来ない意識です。このことが、学年だよりに話題にならないよう、あたりまえに子供たちの意識にあればと思っています。家庭での会話、子供を見る眼をつねに持っていたいと思いました。
- ・お忙しいとは存じますが、今後とも是非、色々なお話しを伺えればと強く希望します。
- ・先生が、生徒にも親にも真摯に向き合ってくださいていることがよくわかります。
- ・学年だより・学級だよりを読ませて頂くたびに、先生方の教育に対する熱心な意欲を感じ、先生方に見守られている子供達は幸せだなと感謝しています。
- ・どのような時も、先生は生徒と本気で向き合って下さり、熱い思いで伝えて下さっていて、感謝の気持ちでいっぱいです。学級だよりはこれからも子育ての、そして私自身の生き方の指針にさせていただきます。
- ・受験生だからという甘えを許さず、生活態度に是々非々を問うご指導を最後までお願いします。保護者としても、学級だよりに記載されているアドバイスをたいへん参考にさせて頂いております。
- ・いつも楽しく読ませてもらっているので、これからもよろしくお願いします。詩や何かの一節、ことわざの引用もけっこう好きです。やはり、メリハリのあるもの、起爆剤効果のある記事でしょうか。
- ・学年だより・学級だよりは、必ず見つけて読んでいます。今後ともよろしくお願いします。
- ・先生方がお忙しい中、学級だより、学年だよりを発行して下さいに本当に感謝いたします。読ませていただくと、先生と実際に話したような気分にな

りますし、お顔を思い浮かべて、親しみを感じたりします。どうぞ、これからも先生方の率直なメッセージ(心のままに)を伺えればと思います。

- ・今一度、おたよりを読み返してみますと、どのおたよりもとても内容のこいものだと改めて感じました。親も生徒もこの内容の濃さに先生の熱き思いを感じずにはいられないと思います。ぜひ、一冊の本として発行してください。

9-2 (生徒)

(1) 学年だより・学級だよりは、君の学校生活に気づきを与えていると思いますか。

- ・日々の生活、行事などをふくめた内容で書かれており、普段、眼をそらしていることも書かれているから。
- ・忙しくなるのであまり自分を見つめ直す余裕がなくなってくる。こういう形で定期的に先生の文章を読むのは意味があると思う。
- ・何度も先生が書かれていた「小石を拾っていけ」という言葉が印象に残っています。高校生というたくさんの可能性に秘められた立場でありながらも、現代の若者にありがちな保守的な立場をとってしばしばあります。そんな私たちに向けて与えられたその言葉の意味は大きいと思います。
- ・語りかけるような文体が好きで、勇気とやる気をもらっています。
- ・その時期によって、自分がすべきこと(勉強に限らず、学校行事や部活動など)や心の持ち方がどのようであるべきか導いてくれるから。
- ・客観的視点からの意見やアドバイスを読むことによって、自分がどのような状況にあるのか意識させられると思う。
- ・経験値の高い人からの指摘は気づきを与えてくれる。
- ・いつも直球で投げかけてくださったお言葉の一つ一つがいつも心に残っていました。
- ・忘れがちになってしまう心や自分の内面的な焦りとの向き合い方などをふと、考えさせてくれるものです。
- ・行事や部活と、勉強との兼ね合いが難しくなった時とかに、ふと読むと、やる気が出る。
- ・高校〇年生のこの頃、といった時期で、今はこういう風に勉強とかしていかなくちゃいけないんだ・・・という感覚がつかめるからです。
- ・失ったことを気づかせてくれる。
- ・学級だよりにも何度も反復されていた「謙虚に学ぶ」と

- いう言葉は、「学ぶ」とはどういうことか、学ぶ者はどうあるべきかについて気づきを与えてくれました。
- ・当たり前と知っていることの大切さに改めて気づかされることのできるから。
 - ・行事に力を注ぐことが、勉強の妨げになることは絶対にないとわかったから。
 - ・自分では気づかないことを先生の立場・視点からアドバイスをしてくれるので。
 - ・これらを読むと、現在、周りの人たちは何を思っているのか参考になります。また、自分に近い話題なので、自分の弱さや、今後、解決するヒントが見つかることも多いからです。
 - ・1ヶ月に1回の学級だよりを読んで、今やるべきことを再認識できるから。
 - ・生徒と先生では、やはり見る視点が違うため、同じものでも違うように解釈できるから。今まで見えなかった見方が分かり、よくいろいろなことを再考させられるから。
 - ・「根っこを張る時期」という学級だよりを読んで、そういう時期になったんだなあと改めて感じ、身がひきしまりました。
 - ・学年の先生方の声が率直に書かれているので、自分の行動を見直すきっかけとなっています。

(2) 今までで、特に、印象に残っている記事があったら、その内容を書いてください。

- ・座布団の一点を引っ張れば、座布団全体がついてくるように、何かを熱心にやれば、他の事柄もそれとともにについてきて、好ましい結果を得ることができる。
- ・特に、クラス観（メンバーシップ型のクラスメイキング）と身の丈受験ではなく、背伸び受験の記事です。
- ・辛夷祭後の学級だよりに「いいものはいいと評価できる生徒になってほしい」といったことが書かれていた記事が印象的でした。
- ・「呟き集」です。家の中に貼ってあります。その時に合う言葉が必ず見つかったような気がします。
- ・「学ぶ者の謙虚さ」「小石を拾う」「辛夷エンジン」などいくつか心に深く残っています。意識して来たつもりです。支えでした。
- ・これからの10年間で、学問と世間の常を学ぶ期間として最も重要な時期であるという記事です。
- ・3つの世代はそれぞれの課題と目標があり、第一世代は学問と世間の常を学ぶ期間であるという文章は、これからの道しるべです。
- ・いつだったか覚えていないんですが、林先生が以前、うけもったクラスの辛夷の演劇で舞台監督を務めた先輩の記事です。これを読んでから辛夷に対する思いがかなり強くなりました。
- ・2008年6月12日の「SHARE」最後の体育祭を終え、これからやるべきことが明確になった。
- ・母も書いていましたが、「附属高校はハイクオリティな車でハイウェイを・・・」という表現は、附属高校での生活を送っていく中で、どんどん実感されました。
- ・高校生を最後までやっていこうという記事。
- ・気持ちを起こすためには何か行動に移すことが大切。
- ・行事に力を注ぐことが、勉強の妨げになることは絶対にないとわかったから。
- ・自分は今、将来のこと（時に受験のこと）で悩んでいるし、それと同時にこの夏の演劇を含めて、どう過ごすべきか非常に悩んでいるので、最近の「時の人だから」という記事が印象に残りました。
- ・「3日坊主」は悪くないという内容のものだ。確かに一度きめたことを3日ぐらいでなあなにしていまい自己嫌悪になってしまうということはよくあるが、それを理由に何もしないより、3日だけでも続けられれば得るものがあるということ。
- ・特に、「すき間の時間」は部活を終えた後でも大事でしっかり勉強を行うことで、リズムができて次の授業も集中できます。
- ・辛夷祭後の2つの学級だよりです。本格的に受験モードに切り換える弾みとなるアドバイスが詰まっていた。
- ・最も印象深いのは、「小石を拾う」という言葉である。高校生活を通して、一見、自分には関係ないように見えるものを深く突き詰めると根源は同じであることを実感した。この言葉を聞いてから、意識的に色々なことに関わるようになった。
- ・「車がガンガン飛ばして走る高速道路、自分の道を見失わないように」と書いてあった学年だよりNo.1 附属高校を上手く表現していると思います。でも、たまに、「止まる」ことも大切なのではないかと考えます。
- ・1つの分野の力を伸ばすことで、最終的に多方面に興味をもち、力を伸ばしたいと思いました。

9-3 メタコミュニケーションとしての

機能に関する回答

- ・子供と落ち着いて話ができるのは1日・・・？何時間、いや何分なのでしょう。時間があれば良いというものではないと思いますが、今の私にはなさすぎます。しかし、時間がながらも良質な親子の話し合いをするためには、学年だより、特に学級だよりは必読です。
- ・家族との会話がスムーズになる内容がいつも含まれていました。教師という立場からの意見に、反省させられることも元気づけられることもしばしばあります。
- ・その時々为学校生活の様子等、なかなか我が子から普段聞けない話を学年・学級だよりから把握でき、毎号、大変興味深く読ませていただいております。タイムリーなアドバイスは初めて高校生を持つ親にとって、子育てをする上で非常に役立ちますし、勉強になることが多く有り難いです。又、書かれている内容を話題にして、子供とのコミュニケーションをとるのにも役立っています。
- ・学級通信を通して知ることができ、本当に附属高校で学ぶ者の芯となる部分を保護者に伝えていただき、とても大切なものであったと思っています。記事を話題にして、親子、夫婦で話をする機会が増えました。
- ・子どもが小さい頃は、時々読んでいた育児書も子どもが成長してからは読むこともなく、試行錯誤で進めてきた子育てですが、高校になってはじめて出会えた高校生の育児書のように思いました。
- ・夫とは、母親とは違った感想、思いがでてきたりで、子育てに対する夫婦のコミュニケーションにも一役かかっていただきました。
- ・子供がネガティブ傾向にありにもかかわらず、「頑張っ」て」としか言うことができていなかった私にとって、最良のアドバイスとなりました。
- ・「眩き」集は、時々見返し心の栄養となっています。
- ・親子の共有な書であり共に同じ話題で話し合えます。
- ・「小石を拾う」ってことは・・・というような会話が親子でできるのも、同じお便りを読んでいるからこそ。また、親への指針を示してくださることで、親が安心でき、間接的に子どもに良い影響を与えられるということもあると思います。
- ・「眩き集」のファンです。縮小してスケジュールノートにはさみ持ち歩いています。
- ・弱気になった時には、成長へのアドバイス者として、親子でおたよりを読み返しています。
- ・「マナー」「学ぶ者の謙虚さ」「小石を拾う」どれもすでになじんだ言葉ですが、これらは学校と親が「愚直に」子供に対することで、はじめて伝えていけることだと思います。
- ・学年、学級だよりは、今すべきことをピンポイントで教えてくれる教本のようなものだと思います。
- ・子ども達の成長や変化を大きく感じ、共に「学ぶ」機会を与えて頂きました。
- ・親子の距離感のお話は、思い当たる節がたくさんあり、子供の自立への手助けができていだろうかといつも考えさせられました。
- ・子供だけではなく、親としてあるべき姿勢も教えて頂きました。夫婦での話題にもよくあがりました。
- ・紙面で配布していただくことにより、私ども保護者も、それを子どもたちと共有することができ、家庭内でもたくさん話題にのぼる機会がありました。
- ・親が子どもとコミュニケーションをとる際のきっかけになっています。
- ・「眩き」特集は、長い間、わが家のトイレに貼り、弟も参考にさせていただきました。短くて深い一文に気持ちが改まりました。
- ・親として、学年だより、学級だよりと共に歩み成長させていただきました。
- ・学年・学級だよりを毎号読ませていただき、親（人間）として学ばせていただくことが多く、心より感謝いたしております。「今」私達保護者が置かれている立場、気持ちを全て代弁していただいている「詩（言葉）」でした。
- ・学年・学級だよりから、大人の確固とした姿勢を常に示す、言い続けることの大切さを教えられ、子どもに思うことを伝え、向き合うことができました。
- ・投げかけられる言葉の数々は、親である私共にも、自分を顧みる機会を与えて下さいます。
- ・子ども達だけでなく親へ向けてのメッセージに何度も励まされました。
- ・経験値の高い教育指導人のお言葉は、日々の学習、受験そして人生のそれぞれの意義について考察することの大切さを生徒のみならず、親に対しても問いかけていると感じています。
- ・親が子供に言っても聞き流される内容も多く含まれていて、活字の形でご指導いただく意味は大きいと思います。
- ・子どもに対してだけでなく、その時に親に必要な言葉もかけて下さり、深く届きました。

- ・親の立場を確認させていただきながら読んでおります。
- ・お便りを通して、親が生徒の様子や先生の教育方針を理解し、子供の学校生活に安心感を持つことができます。そのメッセージを利用して、家庭での子供とのコミュニケーションや教育に大いに役立たせていただいております。

10. アンケートからの考察

保護者の方々から過分なる評価をいただいたことにお礼を申し上げます。

筆者が意図していた次の観点を保護者の回答から読み取ることができた。

- ・子どもとのメタコミュニケーションの一助として。
- ・学校と家庭との架け橋として。
- ・教師の指導に対する理解と協力として。
- ・親としての受信→発信→再構築の一方法として。
- ・子育てのひとつの指針として。

高校生ともなると、小・中学生の時に比べ、保護者が子どもの学校生活の多くを知らなくてもいい部分は確かにあるであろう。しかし、子育ての最後の段階として、子どもの自立を促す支援を「メンタル面」と「現実的なサポート」への両面を見ていくことが必要な時期である。子どもが自分のことだけでなく、自分の所属している集団や仲間に関心を持ち、人と関わりながら生活していくという感覚を養っていくには、子どもに対する保護者の関わりが、まだ実社会を知らない子どもには影響が大きいと考えられる。いわゆる思春期から大人になる準備の時期に向かう子どもに、保護者はどのように関わっていくかを学校という公教育からの発信を受けとめて、再構築された考えを持たれているように感じられる。これは、子どもとその社会環境の現状を把握することから始まる。この点において、発行の意義を理解されていることがうかがわれる。

良好なコミュニケーションと連携のためには、コミュニケーションの目的を明確化することが必要である。保護者とは学年だより・学級だよりを通して、メタコミュニケーション（コミュニケーションを成立させるコミュニケーション）の一手段になっていることが読み取れる。相互信頼の向上、同じ目的を持つ者が互いに連絡を取り、協力し合って子育てをしていくという連携も感じられる。「進路支援」「自立支援」が、思春期の子育ての最も重要なポイントであると判断されている。

また、子どもを見る目の複眼化も見受けられる。高校

生になると自分を見つめる力や、それを伝える言葉を明確に持ち始めるので、大人との対等な対話が可能になってくる。子どもがこんなに変わってくるおもしろい時期なのに、保護者は子どもに密着しているため、かえって分からなくなっていることもある。保護者は過去の自分を対象として子どもを見る（「学んだ者」の論理）ではなく、目の前にいる一人の個性を持った人間として、見ていく（「学ぶ者」の論理）子育ての視点に目をおろした文面もある。

保護者自身の中での自省コミュニケーション、夫婦間の役割コミュニケーション、保護者同士の共感コミュニケーションのきっかけにもなっているが、何よりもこの2つのたよりは、子どもとのコミュニケーションの起爆剤的存在となっていたことが回答から読み取れることである。大人の目で判断した的確な情報を子どもに提供する材料ともなっていることが感じ取れる。子育てに悩みながら親は親になっていき、ひとりの人間として、さらに社会という現実とつながる子育てをしていかなければならないという視点の必要性、さらに親として踏ん張っていく時期であることを改めて感じておられることが伝わってくる。

一方、生徒の反応は、「普段、眼をそらしていることや客観的視点からの意見やアドバイスを読むことによって、自分がどのような状況にあるのか意識させられる。自分では気づかないことを先生の立場・視点からアドバイスしてくれる。自分に近い話題なので、自分の弱さや、今後、解決するヒントが見つかる。1ヶ月に1回の学級だよりを読んで、今やるべきことを認識することができるなど、一つの確認としての視軸となっていることがわかる。生徒と先生では、やはり見る視点が違うため、同じものでも違うように解釈できる。今まで見えなかった見方が分かり、いろいろなことを再考させられる」など「気づき」を与えてくれる存在である。と述べている。

中学生は心と体のバランスが保てず、自分の心の変化を言葉で表せないために、時として、粗暴な行動に現れがちである。高校生になると、少し落ち着いてきて、自分ってこういうものなんだ、とだんだんと分かってくる時期である。保護者や教師が思っている以上に、つたないながらも自分の考えを持ち始めており、発信される情報を自分のものとして、再構築していく可能性を持っている。このように大人としての見解を与えていくことが必要な時期と時勢であると感じていることが、生徒の回答から読み取れると思う。

学年だより・学級だよりを配布すると、その場で目を

通す生徒の数が号数を重ねるごとに多くなってきたように観察している。保護者の回答にもあるように、「息子の言葉の中に、先生が“たより”の中に書かれている事が聞かれます。」ということは、意識している存在となっていると判断できる。事あるたびに言われるよりも、じっくり時間をかけて目で与えた方がいいこともあり、再度、読み返すことのできることで、浸透していく効果もあるということ個人面談時の生徒との話の中で感じ取れることもあった。

しかし、このような平面的コミュニケーションに、伝達の手段を依存してしまえば、本来の「2つのだより」の機能を果たしていないことになる。事あるごとに、いくつかの学年・学級だよりに用いた言葉を、話題として投げかけるように心がけてきた。

この附属高校での3期間（49期、53期、57期）に渡り、およそ170号を越えるの学年・学級だよりを発行してきた。筆者が意図してきたメタコミュニケーションとしての役割は十分に果たせたと実感している。特に、直近の57Aの生徒たちは「小石を拾う」「学ぶ者の謙虚さ」という言葉の意味を理解して卒業して行った。次の学舎へ旅立とうとしている時期、そしていつしかその延長線上で「夢」を叶えるであろう。「夢は叶えてからが長い」という実感は、生徒たちには今は理解できないであろう。いくつの歳になっても「小石を拾って行けば」また、次の夢の層が厚くなっていくことを聞こえさせておくことができた。この他にも150近くの「眩き」は、学年・学級だよりから生まれてきた言葉である。生徒たちが、私にその言葉を表現させ、デリバリーさせてきたのである。個人面談で、保護者と子育てについて話し合った時にいただいた言葉もいくつかある。第一の年代（誕生から25歳まで）の後半期に生きている生徒たちと、30余年の教師としての経験値を持つ人間との接触がもたらせた言葉である。保護者である親も私も、子育てをしていく人間同士が上っていく階段の踊り場にある、ちょっとした標示のようなものでありたいという思いを、この2つの「たより」に込めてきた。同時に、自分の教育観と指導力を顧みてきた。教師と生徒、生徒と親、親と教師、そして教師同士がそれぞれに「今」を共有し、ある言葉の表現に「自分の言葉」を乗せて、伝え合った3年間がそれぞれ3度繰り返された。それぞれの言葉が生きて、心に入り込んで行ったことを期待したい。時勢は変わっていかうとも、生徒たちがこの附属高校でそれぞれの時間と経験を織り込んでいくときに、その動向に寄り添っていくプロとしての経験値を磨きながら、「眩き集」の

一節にある『人を生かし、自分を生かす「やさしさ」を持つ』ことをいつも念頭に置いておきたい。

参考文献

- ・LETTERS of a BUSINESSMAN to his DAUGHTER
G. KINGSLEY WARD
- ・LETTERS of a BUSINESSMAN to his SON
G. KINGSLEY WARD
- ・「今日も一日お元気で 365日」 田中信生 一元社

3-A「学ぶ」シリーズ No. 8
生徒・保護者会用 2012/9/22
東京学芸大学附属高校
3年A組 学級担任 林 正太

将来を夢見る力=LEARNING

きのうを明るく振り返り、あしたに確信を持つ人

存在

卒業祭を終えた高3が、今、目の前にいます。1学期とは違った表情をした顔があります。子どもたちのワールドでは「メーリス」という文明の利器を利用して、気持ちをシェアし合った仲間がここにいます。現代のIT社会に、やっとのことで追っかけている1950年代生まれの人間教師を目指してきた大人もここにいます。

あの時間を褒めてあげたい

まだ、耳には、あの効果音と歌声と台詞が、目の奥には、あの光と衣装とメイクと結い上げられた髪としぐさが、もっと向こうと近くを見ると、劇の効果音を深めた汗のかかったいくつかの舞台道具が、ちょっと横目で見れば、ダンスと練り歩き見えてきます。暑かった熱かった夏に君たちがいたんだなあ確かに記憶しています。過去は記憶の中で美しいものですが、今回の過去となりつつあるものが深さを伴って輝いているようです。

43人が、今、教室にいる

気持ちと表情は正比例します。「何か」を付け加えてきた43人がいます。時間の経過が君たち43人に気づきと変化をくれています。リレートークのあと、一本締めをして次の段階へと気持ちを切り替えました。大切なことを気づかせてくれたクラス演劇でした。頂いた選ばれた言葉の本分が心を穏やかにしてくれました。静めてくれました。

「学ぶ」ということは自分の力量を高めていくこと、生きていく道幅を広げていくこと

「集団の中でつけていく力」を感じた43人が、「個でつける力」の時期に全力で入っていました。それぞれの次の学び舎を求めて。ここからが勝負の時期、伸びていく時期、今までの断片的な知識を解答力に変えていく時期。

20歳前後は、社会に出る準備とその出方を探る時期、20歳代中盤は、足場を広げる時期、30歳代は、足場を固める時期、40歳代は、フォロワーになる時期、50歳代は、責任ある立場を任せられる

時期、それぞれの時期に学びがある。それぞれの時期に抱く夢、まずは20歳代前半に叶えようとする夢、その夢は叶えてからが長い、だから、いつの歳にも「小石」を拾ってあげば、また、次の夢の層が厚くなっていく。

「いいもの」からは学べ！そして、自分の置かれてる状況と立場の心の動きを受け入れ、ときには戦わせながら評価していくことを体験してい

け。「いいもの」が、いつも見えるところで認められ評価されるとは限らない。そこには思わぬ横やり、やっかみ、欲目はつきもの。それらをいかにかわしていくのかを、その方法と術と秘策と共に社会に出たら、身につけていかなければならない。しかし、「いいものはいい」と素直に評価できる心を育てていってほしい。

自分の能力と発想は自分で守れ！

社会に出て行くと、世に評価されるまでは企業内秘密、もしくは部署秘密というものもある。自分のやってきたことや発想を人間に人と言うことで、その評価を確かめたいという心理が働く。ここに社会の厳しさがある。数年先に学んでほしい。

教わっていけると直感した先人を目で追っていけ。教えてもらえるのは、学生という身分のうちだけの特権

洞察力を鍛えておけ。人と関わるということは、自分の新しさと潜在能力の開拓と大きく関わっていくのだから。自分と、人と、社会と関わる自分を育てていけよ。

マナーは人を作る

マナーとは、まわりの人々に対する心遣いではないだろうか。いくつかのマナーのよさは非常に大きな影響を及ぼす。頼めばもらえるものが、要求すれば少ししかもらえない。非難めいた言い方をすれば、もらえる量はさらに減る。心遣いの表現で、人はそれに好意的に反応しないではいられない。これは社会生活の初歩的ななまじり、容易に学べる。どのような攻撃力も礼を尽くすことには及ばない。

天秤の針を勝利者の方に傾けるのは、マナーのよさ、服装の適切さ、身だしなみのよさ、あるいは話し方に自信があって、ゆとりが見えることにある。

これからも、「目」で追っているから

とうとう来てしまったこの時期、「卒業後」。ジグスを信じて、自分を「高め、もっていける」時期に突入した。自分を信じて、強気で勝ち勝負に出て行くための力をつけていく時期だ。

11月中旬頃には、受験する大学を決定しなければならない。現役の時、第一志望を中心として受験校に出願すればいい。進学してもいいと思う大学にだけ出願すればいい。練習は模試ですればいい。複数の大学・学部を練習や場慣れで受験するような自分勝手な思考はやめよう。だって、そこに入学したいと願っている受験生も全国にはいるのだから。

受験勉強もこれから山場を迎える。睡眠時間を極度に削って勉強する人も現れる時期だが、そんな勉強の仕方では、集中力も低下し、決して能率はあがらない。それに、無理をして体調を崩してしまえば、勉強を中断せざるを得ず、思わぬ大ブレーキとなってしまふ。自分の限界を超えないように注意しよう。

勉強の疲れや焦り、不安などが原因でスランプに陥ってしまう人も出てくる時期である。そんなときは、思い切って勉強を休んで気分転換する勇氣も大切である。そのうえで、目の前のやるべきことを焦らず一つひとつこなしていけば、そのうちスランプの状態を抜け出すことができるはずである。また、より得点の伸びが期待できる分野を優先して学習してみることも効果的な方法である。

頭は、時々気晴らしや休息を与えてやらないと、効果的に働かなくなる。四六時中、受験のことを考えていれば、遅からず、燃え尽きる。生活のバランスを保つとは、趣味やスポーツのとき、そして家族と楽しむ時間を週日にも取り入れることを意味する。今は無理かな？このような方法で生活のバランスを保っている人はいる。そのような人は勉強にも（仕事にも）合理的で、健全で、バランスのとれた姿勢で取り組んでいる。そして、何よりも、頭の中が生活のがらくたで散らかっていない。

きみたちはやれるから、自分の信じるるところに向かってやっつけていけ！

親が、いい立ち位置で見えていてくれるから、心を落ち着かせて、「夢を手繰り寄せる強さ」を持って、勝負の時期に入っていけ。君たちは、そ

の時その時に踏ん張り、悩みながらも、ため息をつきながらも、工夫を凝らしてここまで来たじゃないか、自分をここまで持って来たじゃないか。どこの高校生よりも沢山の勉学上の課題と行事に身を投じてきたじゃないか。行け！強気だな。

懐かしいフレーズを載せておこな。

人の世には潮があって
満潮に乗り出せば幸運をもたらし
無潮すればその航海はすべて
浅瀬にのりあげ不幸に終わる
(by Shakespeare)

夢を見るがいい
試すがいい
その成果に自分を褒めたい
それに見合う努力をした
人間の特権だから
(by HAYASHI, Shota)

満足の結果は
何かを成し遂げたときに得られる
何かを成し遂げるためには
意志による
選択と態度
責任の受容と遂行
そして
常に試みようとする
頑固な
不屈の精神が必要である。

人生の価値は
時間の長さではなく
その使い方で決まる
人生に喜びを見出すかどうかは
心の持ち方で決まる。

与えられた時間のなかで
精一杯やることの
きびさと美しさを
学んでほしい。

(コラム)

ある生徒が言った。
元に戻ったけど、元ではない人間がここにいる。
ある生徒が言った。
言葉と時間の戦いであった。

3-A「学ぶ」シリーズ No.12
 生徒・保護者用 2012/12/25
 東京学芸大学附属高校
 3年A組 学級担任 林 正大

いよいよだな

今、受け取った調査書交付願いと封筒、君たちのこれまでの学習の記録が評定平均とともに記されているものが調査書。1月8日に君たちに渡すからな。明日からひとつひとつ念力と思いを込めて封筒に入れていく。始業式以降に、私立大学の出願、そして19,20日にはいよいよセンター試験、翌日に自己採点とセンターリサーチ、そのデータを基に国立大学に出願。

結果はこれからだ

何度と受けてきた模擬試験、その結果に一喜一憂してきたであろう。その結果がどのようなものであれ、入試の結果はこれからだ。高校入試は内申点が合否に大きく影響した。大学入試はセンター試験がその要素となる。だから、今のところ何も決まっていない。これからだぞ。あと4週間の粘り、これに尽きる。今は、不安に包まれていると思う。その不安は受験生が皆、感じているもの、君だけではない。その不安を緩和させるもの、それは、机に向かって自分の姿。

引き出しをたくさん持っている

君たちは、ここ附属高校でたくさんの学びをしてきた。たくさんの知識と出会ってきた。それを定期テストのたびに、詰め込んできた。抜け落ちてきた知識を過去問と予想問題で整理する時期。不確かな知識はすぐに確認する。「後で」とか「出ない」なんて勝手に判断しないこと。そんな事項こそ、試験当日に遭遇してしまいがちだぞ。

センター脳 フル回転

あと4週間、センター対策の日々であれ。センター後に「夢を繋げ」。今はこれに尽きる！！夢を繋ぐことができれば、エンジンはさらに稼働するからな。「センターではそこそこ取って」というなめた考えは、夢にチャレンジできなくなる。ガムシャラに、ガッツリ取り組んで行けよ。

眺める学習ではなく手と声を使え

貴重な時間を使うには、効率のよい学習をしよう。肘をついて眺める学習は時間の無駄。ペンを持って学習、集中力が切れてきたら、声を出す学習を加えていってみなよ。それでも集中できなくなったら、15分程度の小休止を入れてみたらいいぞ。

疲れていると感じたら

寝なよ！
 脳が悲鳴を上げているかもね。無理は代償がでかく出る。だから、脳を休ませるためにも、その晩は思い切って寝なよ。

イライラしてきたら

叫びなよ！
 体を動かさなよ！好きな音楽でも聴きなよ！
 しばらくすると、また、学習に取りかかれる脳の働きに戻るから。それが、夜だったら、ゆったり湯船に浸って、口を閉じて、鼻で湯気を吸い込みながらゆっくり10回ほど呼吸してみなよ。これは、粘膜に潤いを与え、風邪防止対策にも効果ありだと思ふよ。モイスチャー効果と私は名づけているけどね。

ポジティブになれよ

不安は、自分の後ろに追いやりなよ。すべてがこれからだぞ！トンガの精霊と合格銀杏が守ってくれている。君にとって、一番いいところへ導いてくれるから。ヤレ〜！イケ〜！

おめでとう

君たちの中には、すでに大学生の切符を手にした仲間もいるよ。自分の行きたい大学の推薦基準をクリアして、みごと合格をつかんだぞ。その人たちは、大学から出された課題とセンター試験受験への試練で、日々、違う頑張りをしているんだ。そういう人が誰であるか知っていたら、ちょっとだけその人に触っておくと、ご利益があると思ふよ。

(2-A 学ぶシリーズ No.7 より抜粋)

人間はコンピューターではありませんから、どんなに記憶力がよくても、学習したことを100%覚えている人はいません。心理学者の研究(エビングハウスの忘却曲線)で明らかなように、人間は物忘れの名人であるそうです。時間の経過とともに、次から次へと忘れてしまいます。(だから、救われる面もあります。例えば、悲しいこと、恥ずかしいことなどを一生覚えていることは辛いですから。)エビングハウスによると、覚えてから24時間をもっとも忘れ方がひどく、せっかく覚えたことも、その直後から忘れていき、24時間後には7割を忘れてしまうと言われています。一日たつて覚えているのは、3割だそうです。ただし、二日後まで覚えていることは、学習後、一週間たつても覚えています。この論理を活かさない手はありません！もう一つ、記憶増強曲線と呼ばれているものがあります。それは、5回以上、同じことを反復すると、記憶が増強されるというものです。特に、8回以上反復すると、記憶はほぼ100%定着されるそうです。このことから言えることは、忘れないうちに復習すると、その学習項目の理解が深まり、短時間で定着します。ほとんど忘れてしまつてから学習のやり直しをしても、時間と労力がかかる割には、成果は上がらない、ということです。暗記はめんどうだと行って軽視してしまう学習傾向にある人は、特に、この論理に耳を傾けてほしいです。

(時期の詩)

私たちは
 他人に勝ちたいと思ひ
 競争することが
 生きるエネルギーとなる
 時期があります
 しかし 他人に勝つのではなく
 やはり 自分に勝つこと
 つい他人にはきびしく
 自分にはあまくなりがちですが
 もう一人の自分が
 慰め励まし
 他人に負けても
 自分には負けない
 そんな自分を培っていく力が
 人間には備わっているのです



保護者の皆様

お子さんの姿に、日々、それぞれの思いを募らせていらっしゃるのではないのでしょうか。健康管理が一番の気がかりでしょうか。また、天気の良い長期予報が気になっていらっしゃるかもしれません。大学受験は、基本的にお子さんに任せておくことでしょうか。その年齢になっているのですから。もう、親のお膳立ては必要ない部分がほとんどです。ただ、いくつかの確認は必要でしょう。

親の願い

(受験に際して、精一杯頑張る子どもの姿への願い)
 一志望校合格とその後のビジョン—
 *子どもの価値観を受容する

親の喜び

(合格を子どもともに、そして、親として味わえる喜び)
 一直接的子育ての終盤期—
 *その日、そつと親も自分を褒めたい

親の幸せ

(子どもの前途にお金をかけられる幸せ)
 一ここまで来れた子育ての幸せのひとつ—
 *元氣な言葉と表情にうれしさを感じる

親の安心

(子どもが意欲を持って取り組んでいることに対する安心)
 一受験は子どもが乗り越えていくひとつの試練—
 *ここまで来れたことを認めてあげる

親の位置

(子どもの受験を外から見える位置)
 一距離感を心がける—
 *子どもの動向を見守りながら声をかける

親の激励

(精神的フォローアとしての激励)
 一人生の先輩者としての経験談と社会を生き抜く展望—
 *まずは子どもの話を聞くことから始まる

親の責任

(子どもを社会に送り出す責任)
 一受験期においても、子どもの勝手解釈に対する親の毅然たる態度—
 *言うべきことは言い、任せてみる



卒業おめでとう

出会ったのは、ほんの3年前なのに、ずっと一緒にいた気がしています。旅立ちの日です。

君たちに贈る詞です。私のお気に入りの歌の一節（少々アレンジ）です。

明日の光を体に浴びて

振り返らずに

そのまま行けばいい

大きな喜びと

少しの寂しさを

涙の言葉で歌いたい

乾杯！

今、君は

大きな、大きな舞台に立ち

遙か長い道のりを

歩き始めた

君に

幸せあれ！



君たちは、1月31日、それぞれの勝負に出かけに行きました。この学校を去っていきました。時折、見かける顔とガランとした教室に、確かに、時間の流れを感じていました。

それぞれの勝負に結果が出た人、手応えの予感を感じ取っている人、さまざまでしょう。

それぞれの志を持って、自己決定していけばいいのです。報告を待っています。

大学生になっていく君たちへ PART 1

大学教育は君の知的能力を高め、努力することさらに慣れさせ、目的と計画性をもって過ごすこと、多くの人々と交わること、スポーツなど趣味を楽しむこと、異性と付き合うこと、酒を飲んで人生を謳歌することを君に教えるように設計されている。（ただし、最後の三つに重点を置きすぎないように。これらはなぜか、努力しないでも一日の（夜も含めて）大部分を占めるようになるからである。）今後、実社会に出ていく数年間の基礎訓練期間に良い指導者と友に恵まれ、努力を惜しまなければ、君はさらに成長して、やがては自己肯定観を持ちながら実社会に出て行けるであろう。しかし、大切なことは、「机上の学問だけでは社会で活躍できない」ということである。学力以外に大切なものがある。

私は次の3つをあげてみることにする。

まずは、対人力。

礼節を含めた、相手を不快にしない対人力が必要。相手に気持ちよく迎えていただける対人力が必要。人に自分の思いを説得する力も大切。時に、大胆に攻める勇気も必要。時に、断る勇気、逃げる勇気も必要。人を見分ける眼識も大切。私の言う「対人力」は、これらすべての要素を含めたものを指します。今の時代も、対人力は「学力以外大切なもの」の中でも最も重要なものでしょう。大学は出たけれど何もとりえのない勉強だけができた人にはなるなよ。

次は、人を生かし自分を生かす「やさしさ」。

若いときは、自分を生かすことに夢中になっていてもよいと思っている。次第に、上司や仲間や部下、その場の空気と人間関係を生かすことを考えることのできる人が、大切にされるようになってくる。たとえ学力はあっても、このような人間



性や人格がなければ受け入れられない。

三つ目は、勝って驕らない「謙虚な人格」。

若い頃は、自分本位でも周りや社会は許してくるかもしれない。手柄を誇っても許されるかもしれない。驕りのある人、傲慢な人には人はついて行きません。大きな組織は任せられなくなる。社会では大切にされないようになってしまう。「実った稲穂は、頭をたれる」のたとえのように、人も功成名を成すにつれ、頭を低くする人格を身につけることを忘れないようにな。ある意味で、このような世間からの評価を得た高校を卒業し、大学を出て、実社会に出て行くと知らず知らずのうちに、人に対しても社会に対しても驕り高ぶりの感覚をもったままいる卒業生を見かける。大業を成す力と驕り高ぶらない人格をともに身につけていくことは可能なこと。

いつかこの記事を読み出してほしいと思います。

大学生になっていく君たちへ PART 2

「マナー」とは何なのか？ただ、まわりの人びとに対する心遣いではないだろうか。まず「ありがとう」がある。これはおそらく世界中で最も広く用いられる正しいマナーだろう。それには、もうひとつの好ましいマナー「どういたしまして」が自動的に続く。しかし謙虚な言葉遣いはときどき日常のあわただしい会話のなかで、行方不明になる。君たちが一日「すみませんが」という回数を頼みごとをする回数と比較して考えれば、きっと、この言葉の使用回数を十倍に増やしてもいいだろうと思う。もし実際にそうしたら、結果に注意してほしい。私が思うに、依頼や指示の始めか終わりに「恐れいます」とか「お願いします」という言葉をつけるだけで、驚くほど快く、しかもすばやく、応じてくれるものである。

マナーは人を作るのである。知識と操行は同時に向上すべきであるが、残念ながら、両方を持ち備えている人は意外と多くないのである。

さあ、今よりも広い世界に飛び立っているのです。健康に気を付け、オフを入れながら、自分の人生を築いていく基盤を大学で学んで行けよ。

さようなら。

君たちが実社会に出たら、飲もうな。

私も健康維持に努め、楽しみに待っているぞ。

保護者の皆様

淋しさと安堵感でいっぱいです。

お子さんたちは、親や教師には分からない力を持っているとつくづく思っています。今は、学費などで経済的にも大変な時期かもしれませんが、「その時期」に我が子にお金をかけられるのも、親の一つの幸せかもしれません。

私にとっては、担任人生最後に当たる生徒たちでした。教師の本分と親の気持ちを交錯させながら、原則論を大切にしてきました。この子たちに聞こえさせておいたことが、いつの日にか、人生に生かしてくれることを願っています。お元気で過ごしてください。私の学年・学級経営に、ご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

最後の学級だよりを、57期A組のみなさまにお読みいただきましたことを、とても幸甚に思っております。

定年退職まで、あとほんの数年ですが、皆様から頂きました学年・学級だよりに対するご意見をまとめていく時間を作り出していこうと思っています。

嬉しさと大きな淋しさを引きずりながら、ペンを置きます。ありがとうございました。